

ROTARY CLUB OF

KANAZAWA-NORTH



金沢北ロータリークラブ

例会日：木曜日 12:30～13:30

例会場：卯辰山・ホワイトハウス

事務局：金沢市尾山町9-13・金沢商工会議所

TEL <0762> 22-2525

会長：土原一二 幹事：山上啓介

情報委員長：米沢修一

1980・9月4日 第173号

10周年に向けて

— 金沢北郷土誌出版のねらい —

地域開発委員会委員 清水 忠



テレビのチャンネルを廻す。すると、ニューヨーク、パリといった遠い街の風景がつぶさに写し出される。建物や街のたたずまい、人々の生活する姿は東京や金沢といった街と同じではないかと錯覚する。それ位私達は親近感を覚えるのである。少くとも同じ現在の時間に住んでいる人間に関する限り、お互に垣根を感じさせないと思うのは私一人ではないだろう。

この空間の垣根というものがなくなったのはここ10年、20年の特徴でなかろうか。

ところが全く同じ様な見方で現代を考えて見ると空間とは別に時間というものがある。この時間は空間とは対照的に隔たりの度合は時代と共に一層顕著である。それは50年前の写真を見れば歴然とする。

人間の存在は時間と空間である。時間を縦糸、空間を横糸とすれば縦横の座標軸の一点に現在が存在すると言えるだろう。

時間と言うものは過去から始まり現在、そして未来へとつなぐ糸である。

この縦の時間、歴史や伝統が垣根の隔りとして現代の人々は感じ追い求めるとしている。これも又現代の特徴である。

現在から未来へと明日を展望することは重要なことである。我が金沢北RCのテリトリーを掘り起すことはロータリアンとして又、地域の発展の為に意義のある又、必要なことでなかろうか。

— 金沢北RC例会講話から — (文責 米沢修一)

私 の 名 刺

今 村 正 道



金沢の土を初めて踏んだのは、私の15才かの晩秋の或る日曜日であったと思う。33年位前である。

朝鮮から、無一物で福井へ引揚げて1年程後であったか。父が、四高附近の古書籍屋を図示して、「キーパートの微分・積水の古本を求めて来い。」と言われての使いであった。

金沢駅から、弊履破帽マント姿の高校生が出入りして居た書籍屋まで、ついでに香林坊・兼六園を廻り、再び駅まで、下駄履きで歩き通して、小供運賃で福井へ戻った。小さな福井中生、貧乏少年時代の記憶である。

二度目に金沢駅に降りたのは、昭和27年8月、阪大一回生の夏休みであった。炎天の内灘砂丘で作業隊員として、青春の思想遍歴の一頁を過ぎた時である。

この時は、28年後の金沢で、前任者の要請からとは言え、ロータリアンになろうとは夢思ひもなかったし、内灘の砂丘が、平和な住宅で埋まることとなることも、予想だにできなかった。

三菱電機では、伊丹・京都の工場勤務10年。東京本社勤務10年。そして、営業所勤務の経験が、金沢から始まることとなった。

以上が、今までの私と金沢の係わりの大略である。

敗戦、引揚げ、福井震災、三菱爆破等々の、人災天災に遭遇しつつ、友を得、育児を喜び、親を死なせて来た昭和一桁は、既に「天命を知る」歳に近くなった。

今、戦禍戦災を免れた街「金沢」での此の頃、率直に、平和の保持に脅威たりうる兆しに、敏感ならざるを得ない。

扱て三菱電機北陸商品営業所長として、ロータリアン社交が出来るのだろうか。決して自信の有るわけではないが、「奉仕は、余裕が出来てから」などと言っては、一生涯、余裕など出来るものではないのだぞと、自らに言い聞かせ続けて行くこととしたい。

ロータリーニュース

ヨーバ・リングRCより



当クラブとマッチドプログラムにより姉妹提携している、U.S.A.ヨーバ・リングRCの会員、ステーリング・フォックスさん（職業分類＝教育長）の御息、マーク・フォックス君が256地区（新潟・群馬）との交換学生（夏期休暇20日間）として7月20日来日された。

当クラブでは大村会員の長男、一史君が群馬県前橋市まで出向き、ホームステイの安中RC・美沢会員宅で歓迎し友好を深めた。

“皆さんお世話になります”

712地区ハニオエRC 交換学生 ジュディ・ビアンキ



私は、このたびの日本での滞在に、大変感激致しております。又、私にとってすばらしい体験となりそうです。私は旅行が好きなので、交換学生として、他国へ行く募集があると聞いた時は、大喜びで志願しました。

今まで、こちらに来て会った人は、皆いい人達ばかりです。意志応答の方は、問題はありません。(もちろん、まだ日本語は全く駄目で、英語会話だけについて言えることです)しかし、今現在、最も私にとって重大な問題とすれば、食事の時“はし”をうまく使えないことです。

ところで、私には両親の他に、二人の既に結婚している姉と1つ年下の弟がいます。父は、町で小さな食料品店を営んで、家族全員が父を手伝う形で働いています。私は、高校で、事務コースと、フランス語を専攻していました。そして将来、私は、十分熟得できるのなら、自分のフランス語と日本語を生かすことのできる職業につきたいと思っています。なぜなら、フランスはもちろんのこと、殊に米国と日本の経済関係は今日大変密接ですから、日本語は学びがいのある言語だと思っています。

これから、帰国まで、日本の生活を十分楽しみ、価値ある生活にしていきたいと思います。私をホストして頂く金沢北RCの皆様に、大変感謝致します。(訳 大村一史)



歴代、国際ロータリー会長の指針

1962～63年度 ニッチシC.ラハリー(インド)

1. 内部に火を燃やせ。
2. 自身を発見せよ。
3. 力を伸ばせ。
4. 目的を表示せよ。

